

小 論 文

試験時間60分

[受験上の注意]

- (1) 受験生は試験開始20分前までに指定された席に座ってください。
- (2) 受験票は、机上の番号のところに提示してください。
- (3) 筆記用具は、鉛筆、消しゴム以外の使用を認めません。
- (4) 試験開始後、20分を経過した者は当日すべての受験を認めません。
(公共交通機関の運休・遅延等による正当な事由によるものを除く)
- (5) 試験途中の退場は認めません。
- (6) 試験会場においては、すべて試験監督の指示に従ってください。
- (7) 試験の開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- (8) 問題冊子において印刷不鮮明、ページの脱落、解答用紙の汚れ等に気付いた場合は試験監督に申し出てください。
- (9) 体調が悪くなった場合は、試験監督に申し出て、その指示に従ってください。

身 延 山 大 学

時間：60分

小論文

文中の傍線部「深刻化するプラスチックごみ汚染を規制する条約づくり」について、あなたはどのように考えますか。文章全体の内容を踏まえて、あなたの考えを700字程度で書きなさい。

深刻化するプラスチックごみ汚染を規制する条約づくりが難航している。策定に向け、日本は積極的な役割を果たし、国内の削減策を強化することが求められる。

プラごみ削減は、2年前の国連環境総会で、今年中に拘束力のある条約を作ることで合意された。条文案を整理する会合が4月にあったが意見の相違も多く、年末の最終会合を前に、夏ごろにも専門家会合を開くことになった。

問題は、生産から排出・処分までのどこを規制対象とするか。欧州やアフリカ諸国や島嶼（とうしょ）国などは生産量の規制を主張し、産油国や中国は反対。日本は一律の生産規制ではなく、再利用やリサイクルなどを各国の実情に合わせて進めるべきだという姿勢だ。

プラごみ削減で日本は一定の役割を果たしてきた。2019年のG20サミットの「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」では「50年までに新たな海洋汚染ゼロ」を掲げた。昨年のG7広島サミットでは「追加的な汚染ゼロ」の目標を40年に前倒しした。

日本もプラごみを大量に出す先進国として責任は重い。条約策定に向け、生産規制と消費抑制、資金や技術支援などで高い目標を掲げて存在感を示すべきだ。各国の実情に委ねすぎると、ご都合主義になってしまう。

プラスチックは便利だが、分解されずに蓄積する。このままでは増え続ける。野生動物や漁業への被害も広がり、プラスチックに含まれる有害添加物が人間の体内に取り込まれることによる健康被害の懸念も高まってきた。

世界で野外に捨てられたプラごみの半分を56企業の製品が占める、という米大学や環境団体などの調査もある。世界では企業も動き始め、日本でも昨年、食品や日用品メーカーなど10社がプラスチック条約企業連合を発足、政府に「法的拘束力のある野心的な条約」を求めた。環境対策に消極的では、世界の市場から取り残されかねない。

日本ではレジ袋の有料化でマイバッグが当たり前になった。削減量は少なくとも、人々の行動は変わることが示された。プラ製品を使わない選択肢を増やすことが肝要だ。

気候変動、生物多様性の喪失、プラを含む「汚染」は地球環境の三重危機だ。石油が原料のプラスチックは気候変動にも関わり、ごみ汚染は生物多様性にも影響する。

気候変動や生物多様性は解決に向け、条約の締約国会議で交渉や合意が重ねられている。プラごみ問題の解決に向けた歩みを着実にするには踏み込んだ条約が必要だ。